

平成22年度教育委員会事務点検評価(平成21年度実施事務事業)評価表

1 事務事業の基本事項

			整理番号	8
事務事業の名称	図書館管理運営事業		担当部課	教育委員会 生涯学習部 中央図書館
			電話番号	04-2954-4646
実施期間	昭和63年度 ~			
総合振興計画における位置づけ	5章	人を育み文化を創造するまちをめざして	実施計画(H21~23)事業名	
	1節	生涯学習の振興		
	1項	生涯学習の推進	個別計画等の名称	
	2目	生涯学習の機会や場の拡充		
実施根拠	図書館法、狭山市立図書館設置条例、狭山市立図書館管理運営規則			
事業区分	<input checked="" type="checkbox"/> 自治事務 <input type="checkbox"/> 法定受託事務 <input type="checkbox"/> 法定受託事務+自治事務			
事業開始の背景等	昭和40年代からの人口急増に伴い、生涯学習施設としての図書館の果たす役割は年々大きくなり、利用者也増加し、市民の図書館に対するニーズも増大する状況にあった。そこで昭和63年に旧市役所を改修して移転するとともに、平成5年に狭山台図書館を開館した。			

2 事務事業の目的・内容

目的	市民の文化・教養・調査研究・レクリエーション等を支える施設として、図書資料等の整備とレファレンスサービスの充実を図り、利用者のニーズに応える。	
対象	市民・市内在勤在学者・所沢市、飯能市、入間市、川越市民	
活動内容	資料の収集及び保存・資料の利用及び貸出、移動図書館車の運行、他市・他県の図書館との資料の相互貸借、読書案内・相談及び調査研究に対する支援、視聴覚資料の収集及び貸出、幼児・児童を対象としたお話会や映画会の開催、図書館ボランティア及び学校・公民館等との連携協力。	
(下段)前年度の方向性に対する改善活動	(前年度方向性評価)	継続
環境配慮	自主事業や各種事業の開催にあたり、車での利用を控え、公共交通機関を利用するよう呼びかけている。また、パンフレット等を作成する際には再生紙を使用し、印刷は必要最小限の部数とする。	
実施形態	<input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> 補助・負担 <input type="checkbox"/> その他( )	

3 事務事業の実施状況と成果

区分	指標名	区分	単位	19年度	20年度	21年度	22年度	目標値の根拠・考え方
(活動状況指標)	所蔵資料数	目標値	点	581,291	592,778	607,278	621,831	過去3年間の増加資料数の平均値に前年度の所蔵資料数を加えた値
		実績値		579,812	594,061	608,603		
		達成率		99.7%	100.2%	100.2%		
(成果指標)	貸出資料数	目標値	点	802,305	787,205	782,216	813,002	過去3年間の貸出資料数の平均値
		実績値		772,942	786,620	879,446		
		達成率		96.3%	99.9%	112.4%		
(成果指標)	利用者数	目標値	人	288,412	282,970	279,843	280,419	過去3年間の利用者数の平均値
		実績値		278,021	278,444	284,794		
		達成率		96.4%	98.4%	101.8%		

4 事業費

		区分	単位	19年度	20年度	21年度	22年度	
経費	直接費	予算額	千円	107,697	98,219	96,439	92,857	
		決算額	千円	107,293	97,979	96,315		
		財源内訳	国県支出金	千円	0	0	0	
			その他特定財源	千円	7,746	7,941	6,302	
	一般財源		千円	99,547	90,038	90,013		
	人件費	従事職員数	人	12.75	11.00	12.00		
人件費(従事職員数×平均給与)		千円	114,291	100,914	110,340			
		事業費計(直接費決算額+人件費)	千円	221,584	198,893	206,655		
効率性指標	指標名	利用者数	人	278,021	278,444	284,794	1単位当たりの経費	
	単位コスト	利用者一人当たりの経費	円	797	714	725		

5 事務事業の評価

第一次評価(担当課による評価)

項目	評価の視点	評価	評価理由
個別評価	必要性	4	市民の文化・教養・調査研究、レクリエーション等を支える施設として、図書資料等の充実やサービスの向上を図り、利用者のニーズに的確に responding していく必要がある。
		4	
	有効性	4	一回の図書貸出冊数を見直し利用者サービスの向上を図った。所蔵資料数も充実してきており、リクエスト、予約件数、調査相談件数はここ数年増加傾向にある。今後も利用者のニーズを的確に捉えた蔵書構成と運営を行い、図書館利用を促進する必要がある。
4			
効率性	4	臨時職員の活用により、職員体制の効率化を図り、人件費にかかるコスト削減が図られている。	
		< 5段階評価 > 5:極めて高い 4:高い 3:普通 2:低い 1:かなり低い	
<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 内容の見直し <input type="checkbox"/> 抜本の見直し <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 完了			
今後の方向性	今後は、利用者からの多様なニーズに対応したレファレンス(調査・相談)業務の充実を図り、多様な情報の入手と提供、地域を支える情報拠点として、魅力ある図書館づくりを一層進めていく。		

6 その他(学識経験者の意見等)

図書館は社会教育・生涯学習にとって重要な機関であり、所蔵資料数が充実してきている。しかし、更なる活動の工夫が求められる。子どもの読書について、より積極的な取り組みを。学校図書館との連携はもとより乳幼児のブック・スタートなども欲しい。